

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年六月度 入選句（投稿総数二千二百四十二句・小中学投句数千七百二十九句）

特選

つゆの朝歩道橋はかさの花 大垣市 安本 心小四

「かさの花」がよく効いています。雨傘をさした登校の子たちが、次々と学校へ向かつて歩道橋を渡っていくようですが、生き生きと表現できました。「かさの花」から色どりがカラフルで人数も大勢であることがわかります。また、「つゆの朝に始まる」この句全体がリズム・カルで動きが感じられ、読み手に想像を豊かにかきたててくれる一句です。

のぼりぼう夏の空まであとすこし 大垣市 伊藤 英明(小六)

「夏の空まであとすこし」が、いいですね。校庭にある「のぼり棒」は、だれもが、てっぺんまで登ろうと挑戦した経験があるでしょう。

果てしない太陽の照りつける夏の天空へ「あとすこし」と、少し大げさな表現が、目標に向かつて登る、力強くて、たくましい姿が想像をかきたててくれます。「夏の空」という季語もよく効いています。

田うえ前田んぼがかがみみたいだな 大垣市 田なべ ゆうか(小三)

「田んぼがかがみみたいだな」が、いいですね。田植えができるばかりに仕上がった田んぼのことを「代田」(しろた)といいます。田植え前には用水から水を引き入れ、土をくだけながら作業(田かき)があります。水の張られた田んぼの水面には、空から地上に到るまでの景色が、まっさかさまに映つてきれいです。それを「かがみみたいだ」と、たとえたところが、一句を引き立てています。

秀逸

夏祭り今年も行きたいあのひと 美濃加茂市 間宮 浩輝(中三)

もえているたいくたいかいおうえんも 美濃加茂市 森 菜津希(中三)

ざりがにが王様きどりで歩き出す 大垣市 西本 多恵(小六)

手の中であいさつしてるホタルさん 大垣市 野田 希愛(小四)

バラ公園はいったとたんがいいかおり 大垣市 とみだ かずし(小三)

ゆう 大な空に広がる天の川 大垣市 金森 公佑(小四)

おかあさん電車でいねむり夏のたび 大垣市 松岡 百香(小五)

ふうりんがいつしよにかなでるハーモニ― 大垣市 川股 悠月(小五)

あじさいがだれがきれいかきそってる 大垣市 西川 大貴(小五)

せんぷうきほこりかぶって出てきたよ 大垣市 大橋 楽夢音(小五)

入選

口の中甘さ広がる莓の実 美濃加茂市 今井 愛彩(中三)
 登校をするのが苦になる梅雨の朝 美濃加茂市 坂井 裕梨(中三)
 ぐんぐんと気温も上がり汗も出る 美濃加茂市 野呂 祥人(中三)
 舞い上がる麦藁帽子どこへ行く 美濃加茂市 細田 佑奈(中三)
 水田に光あふれて田植え待つ 美濃加茂市 藤掛 莉果(中三)
 わかばかぜばしようぞうにふいてるよ 大垣市 家倉 沙彩(小三)
 大垣に生まれてうれし風薫る 大垣市 山口 香南(小六)
 学校でまいあさ水やりミニトマト 大垣市 仙石 柑奈(小二)
 ねえさんとかごいっぱいのいちごがり 大垣市 河本 瑛誠(小二)
 夜の川ホタルとびかうライトショー 大垣市 安田 暁毅(小六)

入選

かたつむり葉っぱのかげにかくれてる 大垣市 とみおか あかね(小三)
 ぼくのせがとうもろこしにこされそう 大垣市 山岸 かいと(小三)
 ないたあとにじが出ているはんせい日 大垣市 細野 桜(小三)
 ま夜中のかみなり聞いて手をにぎる 大垣市 佐々木 唯名(小三)
 じゃんぷして川に飛びこむかえるさん 大垣市 松村 ともか(小四)
 しらさぎがじつとみつめるえものたち 大垣市 内藤 義貴(小六)
 さくらんぼぼくもあなたもふたごちゃん 大垣市 後藤 幸太郎(小六)
 すいれんがおいけの上にさいてるよ 大垣市 伊藤 美紅(小三)
 ハンモックあおぞらのしたゆらゆらと 大垣市 おんだ かなこ(小二)
 まっかつかかき氷たべたぼくの舌 大垣市 森 奏翔(小二)

選者吟

雨にぬれ雨をこぼして濃あぢさゐ

幹郎